

令和元年度第2回愛南町入札監視委員会 審議概要

開催日及び場所	令和2年1月24日（金）午後2時から 愛南町役場本庁 2階 第1会議室	
出席委員氏名	委員長 木下 尚樹（愛媛大学大学院理工学研究科講師） 委員 尾崎 亘宏（元愛媛県建築住宅課技幹） 委員 青木 千之（元愛南町監査委員） 委員 松本 宏（弁護士）	
審議対象期間	令和元年7月1日～令和元年11月30日	
抽出案件	総件数 26 件	（備考）
一般競争入札	9 件	抽出の考え方 無作為に案件を抽出。（松本委員が案件を抽出。）
指名競争入札	1 件	
随意契約	16 件	
委員からの意見・質問、 それに対する回答等	質問・意見	回 答
	別紙のとおり	別紙のとおり
委員会による意見の具申 又は勧告の内容	なし	

金額がおかしいのではないかと考える。既製品の設置工事で、落札価格が大きく下がることは疑問に思う。適切な設計に努めていただきたい。

【一般競争入札】

町城改第 1 号 町道西柳本線道路改良工事ほか 8 件

・請負金額がおおよそ 2,000 万円以上の工事について、町外業者より町内業者の落札率が比較的高いのはなぜか。

・このような工事における県内の平均的な落札率を知りたい。

・工種、工事内容による差があると考えている。県外業者が落札している工事の内容は、防水工事であり、愛南町の発注工事の中でも低入札が近年発生している工事であることから、落札率が低いものとする。

また入札参加条件の本店又は支店の所在地を県内までに広めていることで、競争が高まったことも一因であると推測される。

工種が土木、とびの工事については、積算基準等により利益率の低さから落札率は下がりにくいといわれる。建築、消防については、各業者の原材料の仕入れ方法等により原価率を抑えることができることから比較的低落札率になる傾向にある。

・愛媛県の土木部が発注している過去 5 年間の工事全体の落札率は 90%前半であり、年々上昇している傾向にある。令和元年度に愛媛県が発注した設計金額 2,000 万円以上で、一般競争入札案件の落札率については、土木は本町とほぼ同水準。建築は本町が低く、とびは県のほうが低い。県のとびに関しては、海岸・漁港に関する案件の発注件数が少なく、入札参加条件も県内に本店、支店、営業所がある企業までと幅広いため、競争が激しいことから落札率が低いものとする。

【指名競争入札】

御荘文化センター舞台照明操作卓等改修工事

・この案件では県外業者のみが参加しているのはなぜなのか。

議題3 その他

特になし

・この工事は、専門的な技術が必要になることから指名競争入札をとっており、指名業者については、県内で実績のある業者を選定している。県外業者しか参加がないのは、県内業者に該当者がいなかったためである。